

古來「赤子は寝て居る中に育つ」と云ふ説がありま
すが今子供を調べて見ると殊に世俚諺の意味深い
ことを知ることが出来ます。其譯は嘗て獨逸のロ
ベルトと云ふ學者の調べたと云ふのに臥して居る
人の身長は通常起つて居る人のに比して平均一、
三厘多く二十四時間起ち詰めた人の身長は常
のものに比して六厘位迄短いものたそうである
起きて居る中は段々短くなるものであるとしたら
ば身長は伸びるのは寝て居る時の外ない譯である
から前の俚諺は誠に意味のあることを云つたもの
と云はねばならぬ。

自治と愛情

虚 空 子

世の教育者たるものは、殊に愛といふ事を忘れて
はならぬと思ふ、しかし其の愛が多くは姑息の愛
に流れ易いのである、そこで眞の愛といふのは、
今少し子供に自治の習慣をつけて貰ひたい、袴の
紐が解けたといつては結んでやり、鼻が出たとい
つてはかんでやつたりしたのは眞の愛とは言へ

ぬ、併し之が今日一般に親切な先生といつて歡迎
されて居るのである、勿論こんなことは面倒だと
いつて一向かまいつけぬ先生に較べては多少優れ
て居るには相違ないが、そんな事はお前にも出来
るだらうといつて、子供相應自身にやらせる様に
して、愈々出来ぬといふ時に手傳つてもやらせる
といふ先生から見ると劣つて居るだらうと信じる
何れにしても今少し子供に自治の習慣をつける様
にしたものだ、所謂子供をあまへさして仕舞て
は大變である、そこで子供に先生は私共を大事に
して可愛がつて下さるが、又我儘をいつても到底
自由にはならぬものと思はせねばならぬ、さりと
て又先生は無闇に怖いものと思はせてはならぬ、
今日一般の家庭等に於ては殊に後者の弊に陥つて
居るものが多い、そんな事をすると先生にいひつ
けると「いひ子供の方は天を非常に恐れて居る風
がある、大に憂ふべき事である、故に幼児の教育
に従事せらるゝ方は、威あつて猛からずとか寛嚴
宜しきに叶ふとか云ふ語を訓練上の大主義として
貰ひたいのである